



## 『生き残る会社をつくる 「守り」の経営』

浜口 隆則(著)  
かんき出版  
(2021/10)  
1,870円

会社を安定的に存続するために  
経営者が大切にしている攻めと守りの  
守りにフォーカスした一冊。

### 【感想】

会計事務所、経営コンサルティング会社を経て、1997年に20代でビジネスバンク社を起業、シェアオフィスビジネスのパイオニアとして成功を収めた著者が、中小企業のための『「守り」の経営』を述べた一冊。

リーマンショック、大震災、コロナなど「滅多に起きない」と思われている出来事が数年単位で起きる状況下において、いつ起こるかは分からないけれども、「起こると覚悟」して、経営をどのように舵取りしていくべきかということを「守り」の角度から解説されています。

守りの3大分野として、1. 備蓄する 2. 分散する 3. 流動性を高める をあげられ、この視点から何をすべきか具体的に書かれています。以前、ご紹介した「永守流 経営とお金の原則」とあわせて読んでいただくと、守りの強い会社作りへの道筋が明確になっていくと思います。

### 【以下引用】

・PLは、たまたま偶然、良い年があったりします。しかし、BSは誤魔化しようがないです。偶然で良い状態にすることは不可能です。「PLに偶然は、ある」けれども「BSに偶然は、ない」  
成功する社長は、PL思考。成功し続ける社長は、BS思考。

#### ・4つの「分散」

##### ①顧客分散 ②事業分散 ③取引先分散 ④役割分散

最低でも顧客は4社以上に分散させて1社への依存度を25%以下にすべき。

事業分散でトライしてもらいたいのは<同じ顧客層で違う事業>の領域。

「同じ顧客層+別の事業」を縦につながる帯のようにして行って「事業帯」をつくっていきましょう。

・ビジネスにおける最大の脅威の一つは「価格決定権」にあります。

なぜなら「価格決定権」を失うと高収益なビジネスを展開することは難しいからです。

・私は個人的には性善説です。しかし、人には弱い部分があります。その弱さが悪を生み出す可能性はあります。それを認めざるをえません。ですから「性弱説」です。人は弱いから、手を抜く可能性があるし、犯罪に手を染めてしまう可能性もあるということです。社員を守る意味でも、人の弱さを「疑う」べきなのです。

・PL全体を見ている経営者は多いですが、一人当たりのPLをモニタリングしている経営者は少ないので注意が必要です。

「備蓄」「分散」「流動性」という切り口で経営を見直す良い機会となる内容ですので、ぜひご自社に当てはめてチェックしてみることをお勧めします。